



# 鹿児島県護憲平和 フォーラム情報

NO—139 2022.9.18

発行：鹿児島県護憲平和フォーラム E-mail:kenheiwa@bronze.ocn.ne.jp  
連絡先：鹿児島市鴨池新町5-7 TEL 099-252-8585 FAX099-258-4560

## 「日米合同訓練反対」特集号

鹿児島護憲平和フォーラムと社民党合同で県内傘下の7ブロックで8月28日

11:30~12:00まで統一スタンディングで県民の皆様にアピールしました。

各ブロックからの報告を特集号で報告いたします。

### 大隅ブロック

日米共同訓練オリエントシールド反対統一行動日の、大隅ブロック行動は鹿屋市寿一里山交差点で30分間行動しました。

横断幕を新調して交通量の多い同交差点の四つ角に立ち、14人の参加者はハンドマイクとプラカードで行き交う車や歩行者に

「米軍来るな」「日米軍事訓練反対」等訴えて、市民の皆さんも一緒に声を上げようと呼びかけました。



## 北薩ブロック平和運動センター

# 「国道 3 号線川内駅前交差点」及び「出水市役所前通り」の 2 個所でアピール行動を行う！

自衛隊と米陸軍との実動訓練(オリエント・シールド 22=東洋の盾)が「共同して島嶼防衛作戦を実施する場合の相互連携要領の実行動の演習」として県内では 8 月 28 日から 9 月 3 日まで実施されることに抗議と市民へのアピール行動として、県下各地で同時に行われる行動に連帯し、北薩ブロック平和運動センターは「国道 3 号線川内駅前交差点」に 11 名、「出水市役所前通り」に 15 名が参加し、プラカードや自作した横断幕などを準備し、スタンディング行動を行いました。行動中は、通りがかった車から多くの方々が、手を振って応えてくださいり、多くの市民へアピール出来ました。

米国のペロン下院議長の訪台を機に、米国・日本と中国が台湾をめぐる軍事衝突の危機を深め太平洋の島嶼を中心に一発触発の状態になっています。かつて日本軍国主義が、戦場とした太平洋の島々で再び戦争を繰り返してはならないという強い決意で、北薩ブロックの参加した仲間たちは、この訓練に断固抗議するために、暑い陽射しの中で行動しました。岸田政権は、憲法改悪と大軍拡・安保同盟強化に突き進んでいます。九州・南西諸島で对中国の先制攻撃の拠点作りを一挙に加速しています。参加した全ての仲間が、電子戦部隊をも投入した今回の日米共同訓練の強行、鹿屋基地への米軍無人偵察機の配備など、鹿児島県を米日の对中国の出撃拠点として強化する策動を許さないという強い気持ちをみなぎらせての行動でした。



## 南薩ブロックは知覧平和会館 入り口で



総勢 11 人で行動

自衛隊と米陸軍との実動訓練(オリエント・シールド 22)〔東洋の盾〕が「共同して島嶼防衛作戦を実施する場合の相互連携要領の実行動の演習」として県内では 8 月 28 日から 9 月 3 日まで実施されることに抗議と市民へのアピール行動として、南薩地区は南九州市・知覧平和会館入り口の国道沿いで 8 月 28 日午前、写真のパネルをかざして展開しました。

今回、鹿児島での訓練は「霧島演習場での陸自ヘリ及び米陸軍ヘリによるヘリボン訓練を含む共同戦闘訓練」「奄美駐屯地での米陸軍戦闘部隊(HIMARS)及び陸上自衛隊(12 式地対艦ミサイル)との共同対艦戦闘訓練、訓練の研修」「瀬戸内分屯地では陸上自衛隊(12 式地対艦ミサイル)による対艦戦闘訓練」が計画され、特に奄美では一般国道をミサイル搭載のトラックが走るし、公園での模擬訓練も予定されています。

参加規模は大矢野原演習場(熊本県)・霧島演習場(えびの市・湧水町)で陸自 700 人・米陸軍 280 人、「共同対艦戦闘訓練」の奄美駐屯地・瀬戸内分屯地では陸自 200 人・米陸軍 50 人が想定されています。 霧島演習場においては、実弾を使用した訓練は予定していないこと。米軍人は訓練期間中、演習場内に宿泊することとしていますが、必要最小限の必要物資の購入などのために外出する可能性はあります、となっている。

**台湾海峡をはさんだ不穏な動きに煽られない行動こそ必要 !!!**

# 鹿児島ブロック、「鹿児島中央駅東口ひろば」 「伊集院猪鹿倉南交差点」の2箇所でアピール

自衛隊と米陸軍との実動訓練(オリエント・シールド)  
22)〔東洋の盾〕が「共同して島嶼防衛作戦を実施する場合の相互連携要領の実行動の演習」として県内では8月28日から9月3日まで実施されることに抗議と市民へのアピール行動として、鹿児島ブロックは、鹿児島地区は「鹿児島中央駅東口ひろば」に40名を超える参加で、プラカードスタンディング・リレートーク・チラシ配布行動を行いました。当日は24時間テレビのチャリティイベントと重なり、多くの市民へアピール出来ました。(右写真)



日置地区では「猪鹿倉南交差点」で17名の参加のもと、アピール行動を行いました。(下図写真)



今回、鹿児島での訓練は「霧島演習場での陸自ヘリ及び米陸軍ヘリによるヘリボン訓練を含む共同戦闘訓練」

「奄美駐屯地での米陸軍戦闘部隊(HIMARS)及び陸上自衛隊(12式地対艦ミサイル)との共同対艦戦闘訓練、訓練の研修」「瀬戸内分屯地では陸上自衛隊(12式地対艦ミサイル)による対艦戦闘訓練」が計画され、特に奄美では一般国道をミサイル搭載のトラックが走るし、公園での模擬訓練も予定されています。



参加規模は大矢野原演習場(熊本県)・霧島演習場(えびの市・湧水町)で陸自700人・米陸軍280人、「共同対艦戦闘訓練」の奄美駐屯地・瀬戸内分屯地では陸自200人・米陸軍50人が想定されています。

霧島演習場においては、実弾を使用した訓練は予定していないこと。米軍人は訓練期間中、演習場内に宿泊することとしていますが、必要最小限の必要物資の購入などのために外出する可能性はあります、となっています。

今回は、現地での集会に変えて、県内7つのブロック10か所で同様の行動を実施しました。



## 姶良伊佐ブロック平和運動センター

活動名：2022 年度日米共同訓練（オリエントシールド 22）反対統一行動

活動日時：2022 年 8 月 28 日（日）11 時 30 分～12 時 00 分（30 分間）

活動場所：霧島市隼人町木之房交差点

参加人数：15 人

（社民党 6 名、原爆と人間展実行委員会 3 名、鹿教組 1 名、自治労 1 名、i 女性会 2 名、平和センター 2 名）

活動内容：日米共同訓練の反対統一行動として、プラカードを使用しスタンディング行動を実施した。活動を行った交差点は交通量が多く、また当日の参加者が想定した人数より多く参加してくださったので、市民の方に広くアピールできた。今回は、湧水町での活動が出来なかったので次回は工夫を凝らして行動が実施できるように検討していく。



## 奄美ブロック

### 日米合同訓練反対奄美集会の経過報告

昨年に引き続き、奄美で三度目の日米共同訓練を8月28日から9月3日までの7日間実施されると発表されました。「奄美の自然と平和を守る郡民会議」は、この訓練の危険性を群島民に知らせるために、3回にわたって集会（ミニも含め）を開くことに決めました。

一回目は訓練開催前々日の8月26日金に、奄美で最大に交通量の多い永田橋交差点広場で午後6時から6時45分まで行いました。

郡民会議星村博文議長は、「奄美大島をアメリカのための盾・要塞にして、戦場にしてはならない」と訴えました。また、「軍事訓練の危険性を住民に知らせ」共に反戦のとりくみを構築しよう呼びかけました。

退職教職員協議会・会長、勇寛和さんは、陸自駐屯地配備前の自衛隊独自の離島奪還作戦から自衛隊と米軍との合同軍事訓練まで、軍事訓練が強化されている。島民は、こんなはずでなかったと思っていた。もとの「軍隊のいない島」に返してほしいと、訴えました。

奄美憲法九条の会・文澤竹弘会長は、侵略戦争は、権力者の陰謀からはじまる。日本もかつて侵略戦争を行い、多くの国内外の犠牲者を出した。今ウクライナ戦争でも、人間の正常心を失った両軍兵士の生命が断れている。ウクライナの一般市民の命も武力で破壊されている。自衛隊を戦場に送ってはならない。と訴えました。

共産党の崎田正信市議は、自衛隊員は、専守防衛を誓い軍隊ではない。日米合同訓練は自衛隊を米軍の指令の下、敵基地までも攻撃できる体制作りであり、奄美に、日本に戦争を呼び込む行為である。戦争への道を開いてはいけないと訴えました。

磨島昭広県平和フォーラム事務局長は、日米軍事訓練は、思い遣り予算から計上されている国民の税金を使って戦争の準備を行なっていることになる。世界の平和は武力で実現できない。平和憲法を基に外交努力を怠ってはならないと語りました。

退職女性教職員の上原恵美子さんから、「奄美はこれからも軍事要塞の島とは無縁の自然豊かな島であり続けたい。集会決議が提案され、全員一致で採択されました。

最後に星村議長より、「奄美の自然を守ろう」「日米軍事訓練をやめよ」「戦争絶対反対」と、シュプレヒコールを上げました。

28日日は、同じ永田橋駐車場でサイレント・スタンディングが行われました。7名の参加でしたが、道行く車のドライバーに「戦争反対」「ウクライナ戦争やめよう」を訴えました。

